特集

安全・安心・快適なまちをつくる

地域の力

私たちが暮らしていく上で、最も身近なコミュニティー(共同体)である「町内会」。現在、市内には611の町内会があります。

本市のまちづくりの道しるべである「第6次佐世保市総合計画」の後期基本計画では、3つの重点プロジェクトの一つとして「地域の絆プロジェクト」を掲げており、自治会や町内会などの地域コミュニティー活動の支援と活性化が主な取り組みの一つになっています。

今回の特集では、町内会の役割や活動内容、そして、それを取り巻く課題や活動している市民の皆さんの声などをお知らせします。

写真：清水小学校校門前の登校見守り活動の様子

Power of Community

地域の絆プロジェクト

地域の絆プロジェクトは、市民協働によるまちづくりの基盤である地域コミュニティーの活性化を図るとともに、NPOや地域のリーダーなど、まちづくりの担い手を地域全体で育みながら、高齢者福祉や子育て支援など、暮らしのさまざまな分野で協働によるまちづくりを進めるためのプロジェクトです。

地域コミュニティーとは

「コミュニティー」を辞書で調べると「一定の地域に居住し、共属(ある集団に属しているという意識)感情を持つ人々の集団。地域社会。共同体」と書かれています。

つまり「地域コミュニティー」とは、日常生活での触れ合いや共同活動、共通の経験を通して、連帯感や信頼関係を築きながら、自分たちが住んでいる地域をみんなの力で自主的に住みよくしていく地域社会です。

今、この地域コミュニティーを見直し、活性化しようとする動きが全国で起こっています。

頼れるご近所さんを持つ人が減っています

皆さんは、隣に住む人の顔を知っていますか？　あいさつは交わしますか？

もしほとんど交流がなかったとしても、普段の生活の中ではあまり問題にならないかもしれません。しかし、いざ災害などに遭ったとしたらどうでしょう。携帯電話が通じない、けがをして身動きが取れない…。このような非常時に、まず最初に自分や家族に助けの手を差しのべられるのは、隣近所に住む人たちではないでしょうか。

少子高齢化や未婚率の上昇で単身世帯が増えたこと、また、あまり近所と関わりたくない、プライバシーを守りたいなどの理由で、隣近所との関わりが希薄になりつつあるといわれる今、「頼れるご近所さん」を持つ人が減っています。

頼れるご近所さんの集まりそれが「町内会」

地域の人たちが快適に暮らしていくために、さまざまな人が集まり、考え、実行する町内会。この広報させぼも、町内会を通じて皆さんの手元に配布されています。

ほかにも、まちの美化活動や防災・防火訓練、防犯パトロール、世代を超えて楽しめる夏祭りや餅つきの実施など町内会の活動は多岐にわたります。このような活動に普段から参加することは、大切な「ご近所付き合い」の一つと言えます。

しかし最近は町内会の加入率が低下するなど、いろいろな課題が生まれています。

地域の絆プロジェクト

本市の後期基本計画の「地域の絆プロジェクト」では、自治会・町内会の地域コミュニティー活動や活性化の支援などを主な取り組みに掲げています。その基本的な指針となるのが、平成24年11月に策定した「佐世保市地域コミュニティ推進指針」であり、その内容は次の4本の柱で構成されています。

①基礎的な地域の自治組織である町内会の活性化

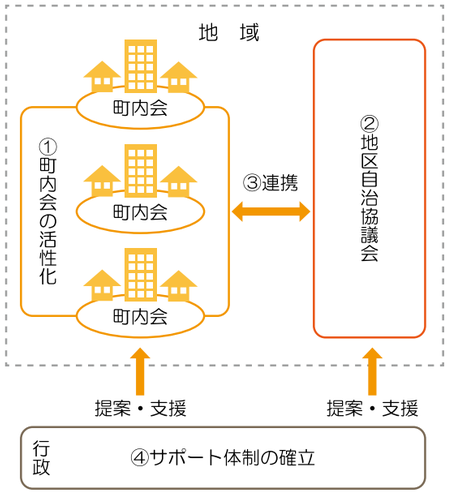
②新しい地域コミュニティー組織となる「地区自治協議会」の設立

③各町内会と地区自治協議会との連携

④行政支援と市役所内部の体制確立

この指針に基づき、現在、市内4地区でモデル事業を実施しており、平成26年度まで検証作業や評価を行って計画書を策定し、平成27年度以降に市内全域で実施する予定です。

地域コミュニティ推進指針の施策イメージ



Power of Community

町内会ってどんなところ？

町内会とは、同じ地域に住む人々が日ごろから親睦と交流を通じて連帯感を深めながらみんなで協力し合い、住みよく明るいまちづくりのために自主的に活動している、地域のつながりで作られた団体です。昔からその絆の中で日々の生活に密接した問題を解決し、安全・安心な暮らしが営まれてきました。

町内会は助け合い支え合う場

町内会では、住んでいる地域で安全・安心な生活を送るために、地域のさまざまな課題解決に向けた取り組みなどを行っています。具体的には次のようなことです。

- ゴミステーションの設置や維持管理
- 清掃や草刈りなどの美化活動
- 防犯パトロール、防犯灯の設置や維持管理
- 子どもたちの通学路の見守り活動
- 敬老会の企画・実施や高齢者福祉活動
- スポーツ大会や祭りなど各種行事の運営

私たちの日々の生活は、隣近所や地域住民同士の助け合いによって支えられています。その最も身近な組織が町内会なのです。

個人で解決できないことはみんなで協力して解決

町内会組織は特定の地域の住民で構成され、その総意に基づいて運営されている団体です。加入は任意ですが、多くの皆さんが参加し積極的に関わることが大切です。

近年、地域の課題は防犯・防災、環境問題、高齢者福祉、子育てなど多様化しています。いずれも個人で解決できることではなく、また全てを行政で対応することも難しいのが現状です。

そこで、自分たちが住む地域で安全に楽しく住み続けられるよう、お互いに協力し合う場として、町内会がますます重要になっています。また、町内会の集まりや行事などで、近所にどんな人が住んでいるのかを知り、普段からコミュニケーションを取ることは、災害などいざというときの心強い支えとなります。

皆さんの代表が運営を行っています

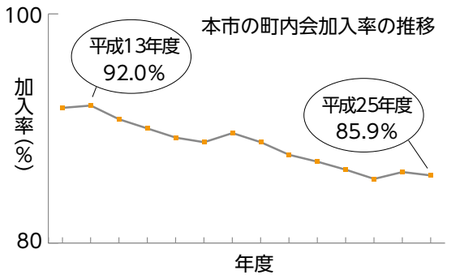
町内会が活動を行うための資金のほとんどは、町内会費で賄われています。会員一人一人が役割を持ち、コミュニケーションを図りながら運営していくことが望ましい姿ですが、現実には全員がいつも集まることはできないので、会長をはじめとする役員の人たちが活動方針や年間計画、予算などを立て、総会などで会員の承認を得ながら、円滑な運営や活動を行っています。

加入する人が減っています

本市の町内会加入率は近年85%以上と比較的高い加入率を維持していますが、年々減少傾向にあります(左グラフ)。

地域によって事情が異なるため要因もさまざまですが、その一つとして、若い単身世帯、アパート・マンション住民の加入者が少なくなってきていることなどが考えられます。

また、「町内会がどのような活動を行っているのか分からない」「知っている人がいない」などで加入を見送っている住民の皆さんもいるのではないかと考えられます。未加入世帯が増えると、実は困ることがたくさんあります。



最大の課題は担い手不足

町内会が抱える大きな課題に、未加入世帯の増加や町内会活動の参加者が少ない、役員になる人がいないなど、地域活動の担い手が不足していることが挙げられます。後継者がいないため同じ人がずっと役員をしているなど、一部の住民に大きな負担が掛かっている町内会も少なくありません。また、未加入世帯が増えたことで運営費である町内会費の収入が減り、安全のための防犯灯を設置したくても運営費が足りないためできない、などの問題が発生しています。

このような状態が続くと、ますます地域活動の担い手が少なくなり、思うような活動ができず、町内会そのものが疲弊する恐れがあります。

「地域コミュニティ推進事業」で町内会を活性化！

これまでの町内会

現在、本市には611の町内会があり、5世帯から2千世帯を超えるところまで規模もさまざまです。

小規模の町内会は、高齢化や担い手不足で、役員の確保や活動が困難になり、運営がままならないところが増えており、大きな町内会は人数が多い分まとめるのが難しく、何かするときに時間がかかるという傾向があるようです。

町内会は地域コミュニティーの中で最も基本的な組織であり、住民の皆さんが「お互いさま」の精神で支えてきた身近な集まりです。これからも交流と協力の中で支え合いを維持していく、足腰の強い町内会組織を目指し、今後その活性化を図っていく必要があります。

これからの町内会

このようにさまざまな課題を抱える町内会ですが、今後これまでと同じように活動を続けていても課題を解決に導くのが難しい状況です。また地域全体の防災体制づくりなど、新たに必要とされている取り組みをどのように進めていけばよいかなどの課題もあり、諸課題の解消に向けて新たな取り組みが必要になってきています。

そこで、現在本市では「地域コミュニティ推進事業」として、町内会を中心とした地域の活性化に向けた取り組みを推進しています。

その中で、活力が低下しつつある町内会では対応できない課題を、町内会単体ではなく地域内の広い範囲で考えて解決できるよう、各種地域団体の参加による「地区自治協議会」の設立を推進します。

地区自治協議会とは

地区自治協議会は、町内会が中心となって今まで個々に活動していた地域のさまざまな団体が連携する、地域を代表する市民団体です。PTAや子ども会、老人クラブや民生児童委員協議会、消防団などの各地域団体との横のつながりを強化してとりまとめることで、活気あふれる住みよいまちを地域住民の皆さんと育てていけるよう、今後その設立と運営を推進していきます。

モデル事業の開始

現在、市内4つの地区(山澄、大野、宮、吉井)でモデル事業を開始しています。人口や世帯数、地理的な位置などの条件が異なる4地区を選び、地区自治協議会の設立、運用、連携、体制づくりなどを先行して行って検証をし、課題解決をしながら、市内全体で受け入れてもらえるものとなるよう検討していきます。

公民館長インタビュー
登下校見守り活動

子どもを見守る「地域の力」

通学時間帯に各地で行われている「見守り」の活動。清水小学校前でも通学路の横断歩道など数カ所で行われています。「おはよう！」「名札忘れとらんや？」。吉武さんは、毎朝ここで子どもたちに声を掛け続けています。車の往来が激しい時間帯なので、子どもたちを無事に見送るために、その表情は真剣そのものです。「同じ地域に住む大人として、あいさつだけではなく子どもたちにだめなことはだめとはっきり教えたい。同時に、良いことをしたときはしっかりほめてあげたい」。地域の子どもたちを育むのも「地域の力」だと感じる力強い言葉でした。

石坂町公民館長
吉武さん

公民館長インタビュー
防犯灯LED化計画

夜のまちを見守る「地域の力」

防犯灯をLED化するための補助金制度を利用して町内98灯の防犯灯を3年計画でLEDに替える潮見町。以前は週に一度はどこかの電球が切れていて、その度に大人2人がかりで交換していました。寿命が長くて明るいLEDは、現在59灯を交換した時点で、住民の評判がとても良いとのこと。「補助金の申請や設置に関する疑問などは、市民生活課で相談しました。一度に全部でなくとも、計画的に取り替えることで町の負担分を年度ごとに分散できます。電気代も下がりましたよ」と鶴田さん。来年度、潮見町は、全ての防犯灯がLEDになります。

潮見町公民館
館長・鶴田さん(左)
副館長・松浦さん

※LED防犯灯の補助金について詳しくは市民生活課にお尋ねください。

Power of Community

地区自治協議会の会長にインタビュー
モデル事業実施地区で聞いたキーワードは「ご近所と仲良く」

安全・安心なまちづくりはコミュニケーションが大切です

地域コミュニティ推進事業
モデル事業実施地区
宮地区

宮地区自治協議会会長
長野憲道（のりみち）さん（63）

史跡「無窮洞（むきゅうどう）」がある宮地区は、田園風景が広がるのどかな土地柄で、農業漁業を主体とした約千世帯3100人が暮らしています。「農村部で比較的人口の少ない地区」としてモデル事業実施地区に選ばれ、7月17日に地区自治協議会の設立総会を開催しました。

宮地区の特徴

市街化調整区域に指定されているため、原則として新たに住宅を建てることができない宮地区は、昔からのご近所付き合いが色濃く残るまちです。少子高齢化や人口の減少などの課題はありますが、昔から町内会活動が盛んで、加入率はほぼ100%に近く、夏祭りや町民運動会などの行事の際も地域住民の協力体制ができています。そして町内会だけでなく、PTAや老人クラブなどの団体とも連携を取りながら活動しています。

地区自治協議会を立ち上げるに当たり

もともとまとまりのある宮地区では、地区自治協議会を立ち上げる際、7回の準備会を行いましたが、住民の反対などもなく順調に話し合いが進みました。そしてこれを機に組織編成を整理し、具体的な事業内容をまとめました。今後は従来からある活動を継承しつつ、地域行事などの活性化を図り、さらなるまとまりを目指していきます。

安全・安心なまちづくりのために

「昔から『向こう三軒両隣』とか『遠い親戚より近くの他人』とか言いますよね。近くにどんな人が住んでいるのかを知ること、その人たちと普段からコミュニケーションを欠かさないことはとても大切だと思います。いざというとき頼りになるのは、やはり同じまちに住んでいる人たちです」と長野さんは話します。

その具体的なエピソードとして、宮地区で起きた火災の話を聞きました。

ある一軒家からもうもうと煙が立ち上るのを見た近所の人が、すかさず「家の中にまだお年寄りがおるよ！」と叫びました。その声を聞いた近くにいた人はすぐに救出活動を開始。内側から鍵がかけられた玄関をこじ開け、煙が充満している家の中を捜索し、部屋で横になっていた高齢者を発見。無事に救出することができたそうです。これも近所の人が被害に遭った家族のことをよく知っていたからこそできたことです。

話の中で長野さんから何度となく聞いた言葉は「安全・安心なまちづくり」。災害など万が一の事態に対する備えには、非常持ち出し袋の準備などと同じくらい、普段からのご近所付き合いが大切な要素と言えるようです。

地区自治協議会の広報紙。進捗（しんちょく）状況などを住民に分かりやすく伝えます

取材日　9月20日

同じまちの住民同士助け合って生きていきましょう

地域コミュニティ推進事業
モデル事業実施地区
大野地区

大野地区自治協議会会長
江口敏夫さん（85）

鬼の足が岩を蹴破ったという伝説がある眼鏡岩や、旧石器時代からの遺跡が残る大野地区。現在約8800世帯2万人が暮らしています。「住宅地で人口の多い地区」としてモデル事業実施地区に選ばれ、8月6日に地区自治協議会を設立しました。

大野地区の特徴

近年、大型のショッピング施設ができ、マンションやアパートが増えた大野地区は、以前から28の町内会が連合会を作っています。そのため大所帯ではありますが住民の皆さんのまとまりが良く、毎年11月に開催される公民館まつりには約5千人が集まります。住民の皆さんは楽しみにしていて、準備や後片づけなども率先して行っているそうです。一方で、新しいマンションやアパートができたことで、町内会に入らない人が増えているとのこと。市内全体の町内会が抱える未加入世帯増加という課題が顕著に表れている地区ともいえます。

昨年11月に開催された大野地区公民館まつりの様子

深刻な役員の高齢化と後継ぎ不足

「町内会離れ、少子高齢化、後継ぎ不足。全て大野地区だけのことではなく、市内どこの町内会も抱えている問題ですよ」と江口さん。町内会では地域のいろいろな課題を解決するために話し合いが行われます。しかしそれを話し合う役員がどんどん高齢化している上、これからまちをまとめていくべき若い世代が、町内会離れや加入していても参加しないなどの理由で、地域の担い手というバトンを渡すことができずにいます。

ご近所付き合いの復活

「自分もこのまちに暮らす一人であること、決して一人で生活しているわけではないこと、日ごろ奔走している役員さんのご苦労などを考えて、今は仕事で忙しくて話し合いや行事に参加できなくとも、いつかその役割を引き継ぐという気持ちを持っていてほしい」

江口さんは「ご近所付き合いの復活」を願っています。

「昔ほど密でなくとも、同じまちに暮らす住民として普段から声を掛け合い、みんなで助け合って生きていかなければ」。

地域や環境が人を育てる

核家族化で祖父母から孫の三世代が触れ合う機会が減った今、町内会行事は地域の高齢者と子どもたち、そしてその親世代が交流できる良い機会です。江口さんはPTAの会合などで、昔自分の母親に言われた大切な言葉などを紹介し、アドバイスをしているそうです。こういった交流の場に参加すれば教わることがたくさんあり、その中で子どもも親も成長していきます。江口さんは最後にこう言いました。

「地域や環境、人付き合いが『人』を育てるんですよ」

取材日　9月24日

問 市民生活課　☎24・1111